

北海道文教大学では、学修成果（学生が修得した知識及び能力の状況および学修における学生の意識及び行動）の測定・評価についてその目的、評価項目、達成すべき質的水準を次のように定める。

目的

1. 大学が、大学レベルの学修成果を把握・評価することにより、大学の現状把握、全学的な教育改革・改善、学生・学習支援の改善に取り組めるようにする。
2. 学科が、教育課程レベルの学修成果を把握・評価することにより、カリキュラムの改善・向上に取り組めるようにする。
3. 授業科目担当者が、授業科目レベルの学修成果を把握・評価することにより、授業の改善・向上に取り組めるようにする。
4. 学生が、自身の学修成果を把握することにより、自らの成長を実感するとともに今後の意欲につなげることができるようにする。
5. 学修成果に関する情報を公開することにより、社会への説明責任を果たす。

評価項目

3つのポリシー（アドミッション・ポリシー（AP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、ディプロマ・ポリシー（DP））に沿って学生の学修成果の達成状況を測定・評価する。これらは以下の指標を用いて大学レベル・教育課程レベル・授業科目レベルそれぞれにおいて実施する。

1 大学レベル

全学生の入試選抜から入学、卒業に至るまでの進級・退学及びGPA・成績分布状況、卒業率、就職率等の指標、およびルーブリック評価による学修成果および学修行動の調査と卒業時アンケートによる定性的な自己評価に基づいて、学修成果の達成状況を測定・評価する。

	新入生（AP）	在学生（CP、DP）	卒業生（DP）
学生が修得した知識及び能力の状況	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ GPA・成績分布状況 ・ 休学率 ・ 留年率 ・ 退学・除籍率 ・ 学修成果および学修行動の調査	・ 最終卒業率 ・ 4年卒業率 ・ 就職率 ・ 卒業時アンケート
学修における学生の意識及び行動	・ 学生生活実態調査アンケート（Q2志望動機）	・ 学修成果および学修行動の調査	・ 卒業時アンケート

2 教育課程レベル

学科の所定の進級要件・GPA・成績分布状況等の指標、およびルーブリック評価による学修成果および学修行動の調査による定性的な自己評価に基づいて教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価する。

（外国語学部）

	新入生（AP）	在学生（CP、DP）	卒業生（DP）
学生が修得した知識及び能力の状況	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ GPA・成績分布状況 ・ 留年率 ・ TOEIC-IPの1年次から2年次までのスコアの伸び ・ 海外語学研修前後のTOEIC-IPの伸び率 ・ 学修成果および学修行動の調査 ・ 授業評価アンケート	・ 卒業時アンケート ・ 資格・免許の卒業時の取得率 ・ 教員採用試験合格率
学修における学生の意識及び行動	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ 学修成果および学修行動の調査 ・ 授業評価アンケート	・ 卒業時アンケート

(人間科学部 健康栄養学科・理学療法学科・作業療法学科・看護学科)

	新入生 (AP)	在学生 (CP、DP)	卒業生 (DP)
学生が修得した知識及び能力の状況	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ GPA・成績分布状況 ・ 留年率 ・ 学修成果および学修行動の調査 ・ 授業評価アンケート	・ 卒業時アンケート ・ 国家試験合格率
学修における学生の意識及び行動	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ 学修成果および学修行動の調査 ・ 授業評価アンケート	・ 卒業時アンケート

(人間科学部 こども発達学科)

	新入生 (AP)	在学生 (CP、DP)	卒業生 (DP)
学生が修得した知識及び能力の状況	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ GPA・成績分布状況 ・ 留年率 ・ 学修成果および学修行動の調査 ・ 授業評価アンケート	・ 卒業時アンケート ・ 学科で「取得できる資格・免許」の資格・免許の卒業時の取得率
学修における学生の意識及び行動	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ 学修成果および学修行動の調査 ・ 授業評価アンケート	・ 卒業時アンケート

(国際学部)

	新入生 (AP)	在学生 (CP、DP)	卒業生 (DP)
学生が修得した知識及び能力の状況	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ GPA・成績分布状況 ・ 留年率 ・ 学修成果および学修行動の調査 ・ 授業評価アンケート	・ 卒業時アンケート
学修における学生の意識及び行動	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ 学修成果および学修行動の調査 ・ 授業評価アンケート	・ 卒業時アンケート

(医療保健科学部 看護学科・リハビリテーション学科理学療法専攻・リハビリテーション学科作業療法専攻)

	新入生 (AP)	在学生 (CP、DP)	卒業生 (DP)
学生が修得した知識及び能力の状況	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ GPA・成績分布状況 ・ 留年率 ・ 学修成果および学修行動の調査 ・ 授業評価アンケート	・ 卒業時アンケート ・ 国家試験合格率
学修における学生の意識及び行動	・ 1年次の学修成果および学修行動の調査	・ 学修成果および学修行動の調査 ・ 授業評価アンケート	・ 卒業時アンケート

3. 授業科目レベル

シラバスに明記された授業等科目の学修目標に対する評価方法に従った成績評価および授業評価アンケートによる定性的な自己評価に基づいて科目ごとの学修成果の達成状況を測定・評価する。

	在学生 (CP、DP)
学生が修得した知識及び能力の状況	・ 授業科目ごとの成績分布 (GP) ・ 授業評価アンケート (問3 自分の能力を伸ばすことができたと思いますか)
学修における学生の意識及び行動	・ 授業評価アンケートで学修意欲に関する項目・授業評価アンケートで学修時間に関する項目

達成すべき質的水準

大学レベル、教育課程レベル、科目レベル

測定指標	達成すべき質的水準
授業科目の成績(GP)(科目レベル)	「1」以上が90%以上
休学率(大学レベル)	5%未満
留年率(進級判定がある学年のみ) (大学レベル、教育課程レベル)	10%未満
退学・除籍率(大学レベル)	5%未満
4年卒業率(入学者のうち4年で卒業する学生の割合)(大学レベル)	大学全体88%以上
最終卒業率(入学者が最終的に卒業する割合)(大学レベル)	大学全体93%以上
就職率(大学レベル)	95%以上
GPA・成績分布状況 (大学レベル、教育課程レベル)	2.00以上の割合が7割程度以上
学生生活実態調査アンケート(Q2 志望動機 大学に入学するにあたって、志望動機として明確なものをもっていたか?)(大学レベル)	①持っていた②漠然としたものがあった、の回答合計70%以上
学修成果および学修行動の調査における各項目 (大学レベル、教育課程レベル)	2以上 ただし、人間科学部の外国語検定の取得状況には水準を設けない
卒業時アンケートの各項目(大学レベル、教育課程レベル)	3以上
授業評価アンケートの各項目(教育課程レベル、科目レベル)	3以上

教育課程レベルのうち学科固有の指標と達成すべき質的水準

測定指標	達成すべき質的水準
TOEIC-IPの1年次から2年次までのスコアの伸び(国際言語学科)	20点以上
海外語学研修全後のTOEIC-IPの伸び率(国際言語学科)	10%以上
資格・免許の卒業時の取得率(国際言語学科)	15%以上
教員採用試験合格率(=2次審査合格者数÷受験者数) (国際言語学科)	20%以上
国家試験合格率(人間科学部:健康栄養学科、理学療法学科、作業療法学科、看護学科)	健康栄養学科:80%以上 理学療法学科:90%以上 作業療法学科:90%以上 看護学科:90%以上
国家試験合格率(医療保健科学部:看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻、リハビリテーション学科作業療法学専攻)	看護学科:90%以上 理学療法学専攻:90%以上 作業療法学専攻:90%以上
学科で「取得できる資格・免許」の資格・免許の卒業時の取得率(こども発達学科)	90%以上
TOEIC-IPの1年次から2年次までのスコアの伸び (国際教養学科、国際コミュニケーション学科)	90%以上の学生が20点以上
TOEIC-IPの1年次から3年次までのスコアの伸び (国際教養学科、国際コミュニケーション学科)	90%以上の学生が40点以上
卒業時まで、学科が指定した資格・免許・検定試験を取得または合格した学生の割合(国際コミュニケーション学科)	50%以上

検証及び改善

1. 大学レベルの学習成果の測定・評価の結果により、大学運営会議が検証し全学的な教育改革・改善、学生・学習支援の改善に取り組む。
2. 課程レベルの学習成果の測定・評価の結果により、大学運営会議および各学科が検証しカリキュラムの改善に取り組む。
3. 授業科目レベルの学習成果の測定・評価の結果により、教育開発センター会議及び各学科、担当教員が検証し授業の改善に取り組む。